

表1 中井清太夫の履歴

宝暦9. 2. 26	1759	御徒原田兵部組 召抱 。
10. 4. 3	1760	田屋作右衛門組の時、評定所御触書御用出役となる
11. 10. 10	1761	寺社奉行、勘定奉行、町奉行立合御用を勤める。褒美銀5枚 帰番
13. 2. 24	1763	日光山御霊屋其外所々御修復 御作事方仮役となる
明和2. 9. 14	1765	増上寺台徳院御霊屋修復に付、御作事方仮役となる
3. 10. 24	1766	増上寺台徳院御霊屋修復御用を先だつて勤めたことで銀5枚
4. 2. 8	1767	支配勘定 となる。「御徒田屋仙右衛門組 中井正五郎 支配勘定」（幕府日記） 「転役・田屋専右衛門組御徒中井正五郎・支配勘定被仰付旨……同役名ニ指合有之、清太夫ト更名ス」（「官府御沙汰略記」十二巻236頁）
4. 2. 22		支配勘定 中井清太夫 （幕府日記） 「御用、支配勘定中井清太夫（ 正五郎更名 ）金廿両、大坂表へ被遣候」（「官府御沙汰略記」十二巻245頁）
4. 8. 11		吟味方改役並となる。帰府次第（川井久敬に付き添って大坂出張）、申し渡しがあるとのこと。（4. 9. 21 申渡し）
5. 2. 27	1768	西の丸御修復御用掛りとなる。
5. 12. 6		在勤中 吟味方改役になる。
6. 4. 28	1769	仙洞御所御普請御用掛りとなる。
8. 1. 15	1771	御納戸構で お目見え 仰せ付けられる
8. 12. 4		御勘定 となる。扶持方はそのまま下し置かれる。
安永3. 7. 26		代官 となる
3. 9. 5		甲州飯田陣屋に引き移るに付、暇乞い 時服2拝領
4. 3. 16	1775	甲州川々御普請御用掛りとなる（陸奥の小名浜 在江戸）
6. 6. 20	1777	1万石増地 甲府へ場所替え 御蔵方兼帯 右御改料200俵下される（名代が）。
10. 1. 29	1781	甲州川々御普請御用掛りとなる
天明7. 4. 2	1787	1万石増地 武蔵、陸奥へ場所替えを申し付けられる（陸奥 小名浜 在江戸） 「本弾候にて中井をバ至て御懇意に入候という事」（『よしの冊子』上188）
8. 9. 24	1788	関東四川御普請定掛りを命じられた。 御扶持三十人扶持を下された。
寛政1. 9. 12	1789	1万石増地（小金牧 野方兼帯）
3. 8. 13	1791	「切米被召放」
3. 3. 23	1791	「中井清太夫懐中二付」（山来家文書44 寛政2「御用廻条留」）